

令和6年度第4回阪南市子ども・子育て会議資料に関する委員からの質問等一覧

提出された質問・意見等と市の考え方及び回答（内容が同一のものはまとめています。）

資料	該当箇所	委員からの質問等	質問等に対する回答
資料1 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る量の見込みと確保方策（追加分）（案）	①子育て世帯訪問支援事業	事業の内容はどのようなものか。	国において、虐待リスク等の高まりを未然に防止する観点から、保護者に監護させることが不相当と認められる児童のいる家庭等への支援として、家事や育児等の支援を実施する事業と位置づけられています。
		養育支援訪問事業との違いは何か。	養育支援訪問事業については、上記と異なり、養育に関する相談、指導、助言等が主目的の事業となっています。
		養育支援訪問事業の量の見込みと本事業の量の見込みの差は何か。	養育支援訪問事業の単位は「実人数」ですが、本事業の単位は「延べ人数」です。
		担当課はどこか。	未定です。今後の「こども家庭センター」の設置を進める中で検討してまいります。
	②児童育成支援拠点事業	事業の内容はどのようなものか。	国において、虐待を防止する観点から、不適切な養育状態にある家庭等への支援として、こどもの居場所となる場を設置する事業と位置づけられています。
		検討の進行状況はどのようになっているか。	全国の設置状況や近隣団体の動向、費用対効果等を総合的に勘案して設置すべきかどうかを決定するものと承知していますが、現在、本市における児童虐待の中核を担う「こども家庭センター」の設置に注力しています。

資料	該当箇所	委員からの質問等	質問等に対する回答
資料 1 第 3 期阪南市子ども・子育て支援事業計画における子育て支援事業に係る量の見込みと確保方策（追加分）（案）	③親子関係形成支援事業	事業の内容はどのようなものか。	国において、保護者に監護させることが不相当と認められる児童のいる家庭や保護者の養育を支援する必要性が認められる家庭等に対し、講義、グループワーク、個別のロールプレイ等を実施する事業と位置づけられています。
		具体的にどのように支援していくのか。	未定です。今後の「こども家庭センター」の設置を進める中で検討してまいります。
		量の見込みや確保方策はどういった方法で算出したものか。	国が示す算出方法では、推計児童数×対象世帯数÷全児童数となっており、おおまかには、支援が必要な家庭数等を勘案して定めたものとしています。
	⑤産後ケア事業	箇所（施設）数はどれくらいあるか。	本市では、阪南市内 2 か所、阪南市外 4 か所の合計 6 か所の医療機関と契約しています。
		従来から、産後ケア事業は実施されているが、量の見込みと確保方策を設定する意図は、既存の取組を充実させるためか。	令和 6 年 1 0 月 1 0 日付けで、こども家庭庁から市町村に対して市町村子ども・子育て支援事業計画に位置づけるよう指示があったためです。
資料 2 第 3 期阪南市子ども・子育て支援事業計画（素案）	P 2 9 ⑩利用者支援事業	利用状況や相談件数はどうなっているか。	妊娠届出や各事業の面談、電話相談等、様々な場面で相談や情報提供等を行っています。 また、軽微な相談等も多くあるため、全ての件数を記録している訳ではありませんが、令和 5 年度の記録している件数は約 2, 0 0 0 件（面談等：約 1, 1 2 0 件、電話：約 8 8 0 件）となっています。
	P 3 9 基本理念	第 3 期阪南市子ども・子育て支援事業計画に、こどもの声を聴く取組は盛り込まれないのか。	本市では、現在、こどもの声を聴くための具体的な取組が確立していませんが、第 3 期阪南市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、こどもからの意見聴取の実施を検討しています。

資料	該当箇所	委員からの質問等	質問等に対する回答
資料2 第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画（素案）	P 3 9 基本理念	第3期阪南市子ども・子育て支援事業計画に、こどもの相談支援策は盛り込まれないのか。	こどもに対する相談体制としては、第2期計画阪南市子ども・子育て支援事業計画に引き続き、スクールカウンセラー配置事業等を位置づけています。 また、保護者に対する相談体制として位置付けている子ども家庭総合支援拠点においても、こどもが相談できる事業となっております。
	P 3 9 基本理念	最終段落の「子ども子育てまんなかのまち」は、こども基本法にある「こどもまんなか社会」にすべきではないか。	変更可能ですが、皆様のご意見をお聞かせください。 なお、「子ども子育てまんなかのまち」という表現は、この度市長に就任した上甲新市長の所信表明の内容となっていることにご留意ください。
	P 4 1 思春期関係健康教育	「生命の安全教育」と「乳幼児おやことのふれあい授業」を連携して進めてもらいたい。	いただいたご意見は各学校と共有します。
		「赤ちゃん抱っこ体験」の表記を「いのちのふれあい体験」に修正してもらいたい。	本件は、赤ちゃんの重さや首の座りの状況などを人形を使って体験してもらうことを指します。 誤解を招かないよう、「赤ちゃん人形抱っこ体験」に修正することについて、皆様のご意見をお聞かせください。
	P 4 2 ヒューマンライツセミナー	常に現状に気付き、学ぶことが重要であるため、実際に子どもに関わる人の参加を必須にしてはどうか。	本事業は、本市の公立幼稚園・保育所を含むすべての職員の研修を兼ねており、原則、本事業への参加が代替研修の受講をしなければなりません。 そのため、公立幼稚園・保育所の職員は、業務の都合をつけながら、積極的に本事業に参加しています。